

熊本県博物館ネットワークセンターだより 熊本の自然と文化

編集・発行 熊本県博物館ネットワークセンター

2025年3月10日

No. 60

©2010 熊本県くまモン



イベント情報 (令和7年3月～)

企画展

会場：熊本県博物館ネットワークセンター

入場無料

第4回企画展「ちょっと昔の暮らし探検」

高度経済成長期以前まで普通に使われていた暮らしや仕事の道具を紹介します。昔の道具をとおして、ちょっと昔の暮らしをのぞいてみましょう。

○開催期間 令和7年2月11日(火)～3月16日(日)



洗濯機の売り出しの様子 麦島勝氏 撮影

第5回企画展「動物調査のいろは」

動物調査の方法や調査に使われる道具などを、調査対象となる動物の標本とともに紹介します。

○開催期間 令和7年3月25日(火)～6月15日(日)



調査道具の一部

熊本県博物館ネットワークセンターからのお知らせ

博物館ネットワークセンター公式 SNS の開設

博物館ネットワークセンターでは、下記の SNS 公式アカウントを開設しました。イベント情報や新着情報、収蔵品や当センターの発行物の紹介など、様々な情報を発信します。ぜひ、ご覧いただくとともに、「フォロー」と「いいね」をよろしくお願いいたします。

- ◆X アカウント ID : @kumamoto_mnc
- ◆Facebook アカウント名 : 熊本県博物館ネットワークセンター
- ◆Instagram アカウント ID : @kumamoto_mnc



博物館ネットワークセンターアイコン



博物館ネットワークセンター SNS 開設ページ

※本アカウントは情報発信専用のため、コメントやメッセージによるお問合せ・御意見への返信は行いませんので御了承ください。
※SNS 運用方針は当センターホームページに掲載しています。

熊本県博物館ネットワークセンターの学習支援活動、展示活動

熊本県博物館ネットワークセンターでは、学習支援活動として学校や PTA 活動、子ども会活動などで利用できる「移動体験教室」、学校や教育施設等への動物・植物・地質・歴史・民俗の各分野職員の「講師派遣」を受け付けています。また、展示活動として学校や公民館等での「移動展示」、学校での「学校移動展示用パッケージ」及び、図書館や公民館等での「図書館・公民館等移動展示パッケージ」の運用を行っています。

詳細は当センターのホームページをご覧ください。

<移動体験教室プログラムの一例>古銭レプリカを作ろう・草木染め

<図書館・公民館等移動展示パッケージの一例>熊本県で見られる化石



No. 309
植物

ハナハタザオ *Dontostemon dentatus* (アブラナ科)

ハナハタザオは、アブラナ科の越年草です。茎をまっすぐ立てて伸びてゆく草姿を、まっすぐ立てられた旗を掲げる竿(旗竿)に例えた名です。花は紅紫色で美しく、和名の頭に花(ハナ)を冠しています。

ハナハタザオの日本での分布の記録は、本州と九州の9県に限られており、その半分ほどではすでに絶滅したとされています。熊本県では、1905年に採られた標本(図1)以降確認されておらず、「レッドリストくまもと2014」までは絶滅(EX)とされていました。

2012年、一本の花穂が一般の方から当センターに持ち込まれました。これをきっかけに専門家の調査がおこなわれ、2014年に確認の報告が出され、その後「レッドデータブックくまもと2019」では絶滅(EX)から絶滅危惧IA類(CR)へのランク変更、加えて2018年には熊本県の「指定希少野生動植物」に指定され、県内全域において捕獲、採取、殺傷、損傷が規制されました。はじめに持ち込まれた一本の花序は、標本として残してあり(図2)、ハナハタザオの特徴である紅紫色の花弁と、2本が合着した長い雄しべを観察できます(図3)。熊本県での117年ぶりのハナハタザオの確認とつながった、小さいながらもとても大きな役割を果たした標本です。(前田哲弥)



図1 1905年採集のハナハタザオの標本



図2 2012年に持ち込まれた花序の標本

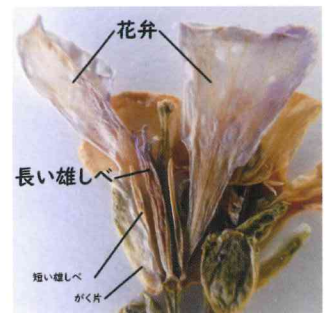


図3 図2の標本の拡大。2本が合着した長い雄しべが見える(葯は失われている)

No. 310
歴史

「ガーゼ製布マスク」(新型コロナウイルス感染症関連資料)

歴史分野では、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に関する資料を、私たちが直面した未曾有の感染症を歴史的に伝えていくために収集しています。本資料はその一つで、不織布マスクの不足を解消することを目的に政府によって配布された「ガーゼ製布マスク」です。

マスクは、令和2年(2020)4月に政府が発表した全世帯へ無償配布を行うという方針から順次配布が実施されました。文部科学省では、小学校・中学校・高等学校・特別支援学校・高等専修学校等の児童生徒及び教職員向けに、4月と5月に1回ずつ配布することで1人1枚ずつ行き渡るように配布され、本資料はその際に県内の高等学校に配布されたマスクです(図1)。厚生労働省から各世帯に配布されたマスク(図2)には、配布時期ごとに違う啓発用チラシが封入されていましたが、学校向けのマスクにはありません。マスクの小ささやゴミの混入が認められる(図3)等といった問題があった配布施策でしたが、世界的に起こった感染症に対して日本で行われた取り組みとして後世に伝えていく必要があります。

収集した資料は、多くの方々の協力の下で収集できた物ばかりです。ご協力いただいた方々にはこの場を借りて、お礼を申し上げます。そして、資料をお持ちの方で、収集にご協力いただける方は、ご相談をお待ちしています。(堤将太)



図2 厚生労働省配布ガーゼ製布マスク



図1 文部科学省配布ガーゼ製布マスク



図3 マスク内へのゴミの混入

No.311
地学

れんこん
漣痕 (リップルマーク) ripple marks

潮が引いた後の海岸の砂浜や干潟などを見ると、図1のような模様が見られます。海の底でもこのような模様が見られます。この模様は、水流や波などの水の動きによって堆積物の表面につくられるもので、漣痕(リップルマーク)といいます。



図1 水流や波によってできた模様 (宇土半島2012年5月24日撮影)

漣痕の上に別の堆積物が堆積すると、これらの模様は地層の中に残されます。図2、図3は、天草市新和町で採取した約5000万年前の漣痕で、本渡層群砥石層の砂岩中に残されていたものです。砥石層は主に三角州の堆積物でできています。

漣痕は、流れのタイプや流速など様々な要因によって形が異なります。図3を見ると、漣痕の断面は非対称で、波高に対して波長が長いという特徴があります。このような模様の漣痕は、一方向の流れによって形成されます。この模様をつくった水の流れの向きは、図3の青い矢印のとおりです。



図2 漣痕 (リップルマーク)



図3 漣痕の断面

この漣痕は、約5000万年前の水の流れを記録した“水流の化石”とも言えるでしょう。

(廣田志乃)

No.312
民俗

羽釜

羽釜は、かまどで使う鍋(釜)の周りに羽とよばれる出っ張りがついたもので、ご飯を炊いたり、お湯を沸かしたりするのに使う調理器具です(図1)。



図1 羽釜(玉名市)

羽釜には、ご飯がおいしく炊けるよう、さまざまな工夫がされていました。周囲の羽はかまどの上穴を塞いで熱を閉じこめ熱効率を高めると同時に、煤が上ることと吹きこぼれがかまどの中に入るのを防ぎます(図2)。丸い底は全体に熱が伝わる形をしています。重い蓋は吹きこぼれを防ぎ、中の湯気を逃さないで高温に保つことでご飯をふっくらと炊き上げることができます。羽釜の蓋が重いほどよく炊けるともいわれていました。



図2 かまど(菊池郡大津町 1987 白石巖撮影)

羽釜による炊飯は「はじめチョロチョロなかパツパ」などといわれるように火加減の調節が難しく、経験と勘を要することから主婦の熟練度をはかる目安に利用されることもありました。電気やガスの炊飯器は、この調節を自動で行なっています。

毎日のご飯を羽釜で炊くことはほとんどなくなりましたが、おいしさを追求すると羽釜で炊いたご飯の再現にいきつくよう、商品名に「羽釜」がついていたり、内釜が羽釜の形になっている炊飯器をみかけます。台所からは姿を消しましたが、現在でも馴染みがある道具です。(迫田久美子)

No. 313
動物

オオオサムシ *Carabus (Ohomopterus) dehaanii* (オサムシ科)

オオオサムシ(図1)は中部地方以西の本州、四国、九州、およびそれらの周辺島嶼に生息している大型のオサムシです。他のオサムシ類と同様、後翅が退化して飛べないため地理変異が大きく、「日本産オサムシ図説」によると基亜種(ssp. *dehaanii*)も含めて8亜種に分けられています。生息地では比較的普通に見られる本種ですが、それらの亜種の分類には不明な点が多く、分類学的研究はまだ途上の状態と言わざるを得ません。

本種は九州ではほぼ全域に生息し、熊本県でも本土部の全域と天草の御所浦島に生息しています。県内には8亜種のうち4つもの亜種が生息するとされており、御所浦島亜種(ssp. *ishidai*)が御所浦島、熊本県南西部亜種(ssp. *strenuus*)が球磨郡球磨村神瀬とその周辺、九州山地南部亜種(ssp. *kumaso*)が九州山地の南部に生息し、それ以外の場所のものは暫定的に基亜種として扱われていますが、各亜種の生息範囲(≒分布境界)は今もよくわかっていません。

本種を含むオサムシ類の採集には、プラカップを用いた落とし穴トラップ(ピットフォールトラップ:図2・3)が昔から広く使われています。飛べない虫を効率よく採集できる方法で、狙いの虫を誘引するための餌(オサムシ類の場合は「さなぎ粉」など)を入れ、カップの上端が地表と同じ高さになるように埋めるのがコツです。また、雨でトラップが水没しにくいように傘を被せたり、獣やカラスのいたずらを防止するために唐辛子を入れたり工夫することで、

失敗のリスクを低減させることができます。地味で地道な調査方法ではありますが、本種の分類学的研究を進展させる上では欠くことのできないものと言えるでしょう(図4)。(中菌洋行)



図4 県内各地で採集されたオオオサムシの標本(吉崎一章コレクション)



図1 オオオサムシ基亜種♂(左:宇土市産)と九州山地南部亜種♂(右:八代市泉町産)



図2 落とし穴トラップ(中身はさなぎ粉と一味唐辛子)



図3 トラップに入った熊本県南西部亜種♀(球磨郡球磨村)

熊本県博物館ネットワークセンター

ISIL JP-2004104

〒869-0524 宇城市松橋町豊福1695

TEL: 0964-34-3301 FAX: 0964-34-3302

E-mail: hakubutsuse@pref.kumamoto.lg.jp

HP: <https://kumamoto-museum.net/kmnc/>

【公共交通機関】

○九州産交バス

松橋バスターミナルより宮原経由

八代産交行き「希望の里入口」下車

○JR 松橋駅より約3km

